# 六家集

壬二下

炬

太政官文庫
和書門
類 特別
號 三二二九六
函 九三
架 一八
冊

内閣文庫
和書
類 特別
號 三二二九六
冊 一八
函 九三
架

共十八

内閣文庫
番號 和 32296
冊數 18 (16)
函號 特93甲 6

国立公文書館
National Archives of Japan

壬二集下


慈　祝　旅
神祇　尺教　雜　哀傷　述懷


国立公文書館
National Archives of Japan

# 憲郭

立寄あるさとみ侍りしに

[illegible]

世中よりかくれゆくもうらやましきかな

[illegible]

暁のかねのこゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
わさの京八十番のてをのはなくまをとりよせる
みちのくにんせのあまの海ゝ無ちまをとりこのひやうん
いせの海のあまのすなをかきあつめてこれをこそ海ほうき
たゝこのわたりはしこのくにのこゝろをこそらぬ
[illegible]
いなかのあまのこゝろをこそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとみさんの中ごろ
とのつくりみてこゝゆう
人ゝなりけるそう
四ぢのうつくしき
ゐなかのおとこの
ゐなかのうたの
ゐなかのうたの
ゐなかのうたの
ゐなかのうたの

古と一首とこゝろ
くれぬる井の水
ゐなかの水
いとゝ
うつくしき
ゐなかの人の
もゝ

この月は海の底とよろこびみるに、いとゝ思ひのまさるこゝちして、

不老長生の心

すゝきの穂にはの下にてつれなきさまにて、ふるいしつゝ月をながめるに、世のうきことも人とはなく海よりうしほ川をさかのぼりてきたりみるあり、

紅葉を志たれば西の人部屋にこもりぬるや海ばんちゝ神に祈る

嫁釣長のこゝろ

かゝる折ふしの神に祈る月は、

長生のよろこびつゝ海ばんちゝの月に遊ぶ



あさ霧のはれて俗しらぬ海ばんちゝ

長生の海ばんちゝ

すゝきの穂にはの下にてつれなきさまにて海ばんちゝ

長生の海ばんちゝ

この世の栄ぶりは紅葉の志たれば世の人部屋にこもりぬるやうにて、

不老長生の心

すゝきの穂にはの下にてつれなきさまにて、

長生の海ばんちゝ

いとゝも人の祈りに神のいとゝ長生を

いとゝもんんもその面の形にて祈りもなき

祈りてこゝろ慰めよ海ばんちゝ神に祈る

長生の海ばんちゝ

長生の一寸のこゝろ

[illegible]

寧楽

とのつゝ花のうつろひ

冬

[illegible]

遠不[illegible]

後鳥羽

秋[illegible]

不審

[illegible]

寧楽

冬[illegible]

[illegible]

嵐

よのつねの[illegible]

建仁元年[illegible]

同二年[illegible]

水[illegible]

[illegible]

夏

[illegible]

秋恋

夕恋

恋ごとのすのねもつきぬ夏草の露

暁恋

つれなさは海の底なる藻の花

寄恋

海の中なる

羇中恋

この浦や知るも知らぬ秋の月

山家恋

つもるらん人めいとはる山里の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寧風記

いにしへん所ハ多くの物ゝ移れ行ゝ世風の
元久元年仙洞ゝ小野宮寺令ゝ西園
寺の水ゝ流ゝて山桜ゝ植ゝ行の夕ハ
建永元年同仙洞御寺令ゝ源山記
ゝ作ゝれ秋の夕ゝ山ゝ吹御寄みゝん
庚申年同仙洞御倉ゝ久記
建ゝ久元年ゝ月ゝ日ゝ
又仙洞御寺令ゝ破記
ゝれ神ゝ毎ゝ年ゝ
同仙洞ゝ行幸社寺令ゝ参拝記
ゝ

兼元四年栗田宮寺令ゝ参月記
ゝれの神のゝ毎ゝ年ゝ月ゝ日ゝ
建暦二年仙洞ゝ次首寺詠河記
山門ゝ月のゝ行ゝ
ゝ山尾ゝ神のゝ
ゝ
ゝ

建暦三年内裏寄合ヨリ籠宿之
同比内裏御寄合ヨリ歩行之
寄合毎之
建保二年同内裏御命ヨリ暁参
同年同内裏御寄合ヨリ秋之

同三年又内裏御寄合有之
同四年又内裏御寄合有ヨリ葬之
同五年又内裏御寄合有ヨリ夜之
或不参ヨリ寄行之
三度十度有命ヨリ之

りつこうとちのうこうの所望申上候
坂京都所司代家令より海田牡丹と
称する神のめめしきものわかへとうさ四郎兼定
同家寄合有り　興宗言意
めめしきまいかりそこに芦むの年書京所のえ
又同家御命ぜられ　三鴻江意伝
みちのくより出ずるこの所
入道前摂政家寄合より治路見意
ちりけるこの衣ゆさきに所ひしめ中に乱れ
山家夕意
ちりけるこの所門かんかめ秋の名書
同家寄合有り　寄馬意

ゆかさ所波せきあ人ゆおお波ゆいいゆ合ゆ書ちさ
同家十首寄合ゆ寄衣意
いかめ代ゆてみちれんみちに所ちこの所ちへよ
寄枕意
ちちちあかもよ月ちかつ所代ちこの
ゆの寄意
ゆんちあちん舞ちちゆひち寄所ちゆんや
寄続意
ゆかくちちみちは寄続ちち舞ちち波
同波文波御命ぜられ不弱得意
ちに寄ゆちちゆちゆちゆちゆちゆ
二品法親王家命ぜられ意

[illegible]

前内大臣家命ニ寄海之

いとまなき身の花のいとはしみるあまの海ぢ

同家命ニ寄映樹之

とりかへ[illegible]

夜河之

[illegible]

又同家寄合ニ秋之

いとはしさ[illegible]

又同家命ニ暮山之

[illegible]

又首寄同家ニ海ニ[illegible]時寄沼之



[illegible]

又同家寄合ニ石不老之

[illegible]

同比又十首寄命ニ[illegible]

同[illegible]

源氏之

[illegible]

前中納言定家ニ命ニ寄[illegible]之

[illegible]

前参議信成ニ小野宮命ニ[illegible]之

[illegible]

或不[illegible]ニ[illegible]命ニ寄木之

[illegible]

家光卿は日吉神社の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正応二年同御所御寄合ゟ被仰
付候ゟ毎年の御年貢の内ゟ寄進
建保二年八月内裏寄合秋税
毎年代ゟ毎年ゟ社家ゟ
自兼明門院被仰付候ゟ
ゟ寄
毎年御ゟ内ゟ内裏ゟ
御年ゟ神のめくゟ紀の国代年ゟ毎年
ゟ御ゟ御ゟ御ゟ
後京極摂政家寄合ゟ米税
いくゟ代ゟ毎ゟ
同家御寄合ゟ
去日山税

去日山松の枝ゟ
同院摂政家孫二年寄ゟ毎上作
百ゟ毎ゟ
一源兼太政大臣家寄ゟ米税
年ゟ
兼内大臣家寄ゟ寿水税
考ゟ代ゟ
新成宿禰七十賀乃時
ゟ
兼但馬守家ゟ日吉寄ゟ社頭税
毎ゟ代ゟ
古今一句ゟ歌ゟ

[illegible]

日吉社宣旨[illegible]

[illegible]

返事

[illegible]

建保二年二月比定家卿[illegible]

[illegible]

返事

[illegible]

[illegible]

みちのくにまかりくだりて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同年南京御舞[illegible]

[illegible]

遠所にて御[illegible]

[illegible]

建保二年内裏御歌合　秋猿

[illegible]

同内裏にて詩歌合御[illegible]

[illegible]

建保六年同内裏[illegible]

[illegible]

[illegible]

船橋

[illegible]

文同家の奇合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白きのうのひく山はなのよそれはいかにとはやゆらん
白きのちはそれとそれとそれと

幽玄体

憲

[illegible]

張

[illegible]

元久元年仙洞にて吉日社奉合に暁月

[illegible]

月ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建永元年仙洞にて尚歌奉合に山

[illegible]

兼氏四年同仙洞御所奉合に 参海行

[illegible]

[illegible]

岩山岩

[illegible]

遠所にて御奉合に山家

[illegible]

山家の心

いつの日れ毎の袖よりかをる山[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建保二年内裏歌合　秋懐

[illegible]

三宮十首歌合　秋懐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月海殿命　無常

[illegible]

前但馬守家長日吉社命　暁述懐

[illegible]

八條宮三首命　社頭述懐

[illegible]

述懐歌　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世中に[illegible]

[illegible]

世中いまゝの民のこゝろ[illegible]

[illegible]

[illegible]

武士の八十うつりはてゝ[illegible]

六月の神とゝまりぬるとゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕ぬるゝいつくよりか海人の袖
吹まきてもとゝ
なるあひねの
ゝ浦のこの
海ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

限りなくみりぬべんなる長しとなりて
ものとそへて一首と
ぬるほどに夜はのあけぬるにそむ屋はなし侍
ぬるよ
むるかなりしかの事ども
三月七日行改俄にて
るれば夜のやうにて
又の日はて
又のこりて此世にて中ばの
ぬるよ
ありさのはらの事ども
又ちりありて又
ぬるよ
ぬるよ
ぬるよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]成小野宮家[illegible]　社松
[illegible]
遠保文年定家[illegible]
[illegible]　社述懐
[illegible]
[illegible]水[illegible]　社述懐
[illegible]
[illegible]　社述懐
[illegible]
[illegible]

正治社[illegible]年未[illegible]
[illegible]
雑[illegible]
[illegible]
神池山[illegible]
八幡別当[illegible]
[illegible]
八幡山[illegible]
月
[illegible]

釋教部

入道前摂政家会に利渉法師別功徳異
如虚空無通ゆゑ以て之
[illegible]
前大僧正の弟西海の沈て　佛前
弁殿の[illegible]
山家述懐
山[illegible]
方便品
[illegible]
私の家に写八部の[illegible]
河春屋長老の[illegible]
[illegible]

月
一天月[illegible]
無常
[illegible]
月輪殿命[illegible]　舎利讃嘆
[illegible]
定家卿一品御遠の時授記
十年[illegible]
前摂政家[illegible]
天王寺繪堂前大僧正[illegible]
障子[illegible]九品往生人[illegible]

卜生の人の心

作者そのかたちはいとあはれなる人なりけるに

去の年ものの例中より

いと世ふるまれの法のむのえをあるさまを考へ

釋教の心ばせは季節ようをそし

白ひろん者共の意をうらぬ人あしと者共侮り

六月の日記をそもいとよりえんかたなきを

あのとりわむのこころをうりまえてうるはしき世を驚かす

つくりそなのつくめの山水は絵あるれとうるはしき

世人の歌をよまるるのつき

辟家品のこころ

うさ世をそ般若みかをそ我海よまふ歌をうと

国立公文書館
National Archives of Japan